

有限会社 長崎建築社 かわら版

2007年7月発行

http://

ホームページを立ち上げました

準備中でしたホームページがようやく立ち上がりました。会社概要やこれまでの仕事の内容などと共に住宅に関するお役立ち情報も掲載しております。

ホームページのアドレスは以下の通りです。皆様方からのご意見や情報をお寄せ下さい。

<http://www4.cncm.ne.jp/~nkensha/>



暑中お見舞い
申し上げます
本格的な夏の到来です。
今後ともよろしくお願い
いたします
平成十九年 盛夏



新潟県中越沖地震が発生しました

新潟県で、また、大きな地震が発生しました。ご親戚や知人・友人が被害に遭われた方には、心よりお見舞い申し上げます。『あんなに大きな地震があったから、しばらくは大丈夫だろう』という気持ちの隙を衝かれたような形でした。今回も、建築後かなりの年数が経った住宅の被害が多いようです。原因として、1階に壁が少ない・白蟻被害がある・柱や梁などの構造材が老朽化している、ということが考えられます。我が国はどこに暮らしていても、地震対策が必要だと痛感します。新聞・テレビでも、住宅の耐震診断の必要性が叫ばれています。住宅は、命はもちろんですが、私たちの生活を守る大切なものです。維持管理や点検の重要さを再認識しました。



縄文人の暮らしを感じてきました

縄文前期から中期（約 5500 年前～4000 年前）、青森三内丸山に暮らした縄文人は、家や集会所を建て、墓をつくり、不要材や食物の廃棄物の捨て場を確保していたようです。その暮らしぶりを感じてきました。

家族で暮らしていた竪穴住居跡はもちろんですが、直径 1m のクリの柱 6 本を立てていた跡、生活廃棄物の捨て場、大型掘立柱建物跡、また、漆塗りや精巧な細工の石器や土器や木製品やヒスイ・コハク・黒曜石などやクリなどの木の実・植物の種子・魚や動物の骨、いぐさ類の植物で編まれた袋（中にクルミが入っていた）、果実酒造りの形跡などをみると、他地域との交流・交易、そして、集まって暮らす際のルールやまち全体の区割りや建物の配置などから当時の生活文化の高さがうかがえ、これまでの縄文人に対する考え方を一変した発見であったと言われることが、なるほどと納得できる遺跡でした。建物も数棟復元されています。三内丸山に縄文人が暮らした頃は、青森も積雪は少なかったようですが、その後、気候が冷却化し、4000 年前より以後は、暮らしの場を南下させて行ったようです。

三内丸山遺跡時代の 5500 年前から吉野ヶ里や原の辻遺跡など弥生時代までの約 1500 年前までの約 4000 年間の生活や住宅づくりの変遷は、とても緩やかな流れであったことが分かります。こうした流れと比較すると、現在の生活や住宅づくりは電光石火の勢いだと感じます。技術や文明が発達することで、便利さや快適さを手に入れたものの、資源や気象の変調を招いているようでもあります。今回、三内丸山遺跡を訪ねたことで、改めて、住宅づくりを含めた『暮らしづくり』について考えさせられました。

「第2回長崎フォーラム物語」は無事、終了いたしました。熱心にご見学頂き、説明員の方々も嬉しい悲鳴を上げられるなど、多くの質問が出されていました。お楽しみの日食会も和やかな雰囲気でした。ありがとうございました。

空梅雨と言われていたところ、7月に入り各地で豪雨となりました。梅雨明け前に台風がやってくるなど、異常気象の始まりではと思わせる状態です。住宅の維持管理だけでなく、健康管理も十分お心かけください。

社員一同

<発行元>

有限会社 長崎建築社

長崎市下西山町1番14号

TEL 095-828-2545

FAX 095-828-2714

Eメール nkensha@mx4.cncm.ne.jp

HP <http://www4.cncm.ne.jp/~nkensha/>

担当 平野啓子